

東区ウォーキングノート～まち歩きの達人編～ はじめにナナメありきー東区の古道探訪 続編ー

文・写真：杉浦 正人（札幌建築鑑賞会 代表）

前回のゴール地点の札幌村郷土記念館から、引き続き道道花畔札幌線を北へ向かって歩きます。

出発する前に、記念館の敷地内に建つ新しい碑（いしぶみ）に目を向けましょう。2019年に建てられた「明治天皇行幸記念碑」です。1881（明治 14）年、明治天皇が北海道を巡幸した際、札幌村にも立ち寄り、この近くで“御野立”（おのだち）しました。「乗馬よりおりられ、丘に登って四方を展望、農業の状況を親しく御覧」（末注）したそうです。このあたりは幕末に大友亀太郎が役宅を構え、明治になってからは札幌村の役場が置かれました。図1の色別標高図を見ると、今でもわずかに高い地形です。「四方を展望」するにもちょうどよかったのでしょう。

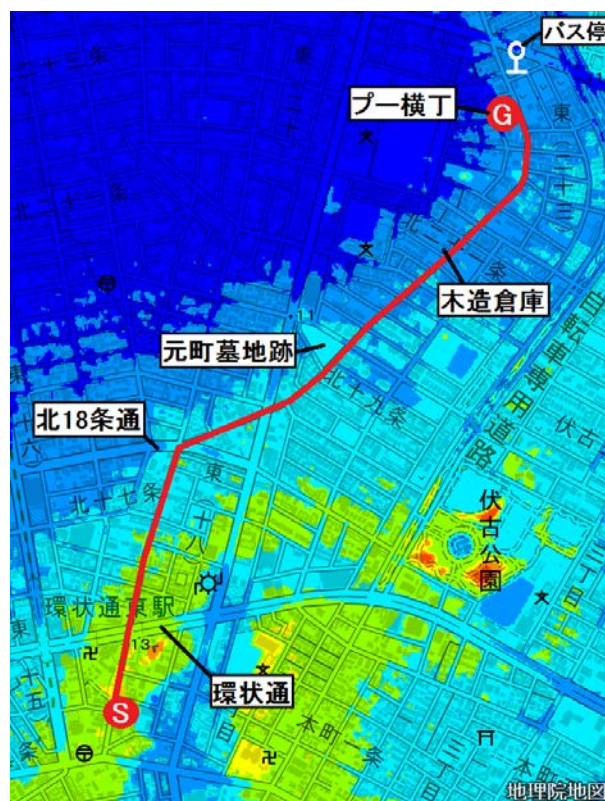


図1：色別標高図（標高10m未満から1mごと15m以上まで7色段彩、
国土地理院サイトから作成）に以下を加筆
赤い太実線：今回歩いたコース
赤い●白ヌキS：出発点（札幌村郷土記念館）、同G：到着点（プー横丁）

左手に古刹・本龍寺を眺めながら環状通を横切り、北へ進みます。北18条通との交差点で道道はナナメに折れます。いかにも“古道感”が漂うナナメ具合です。北18条通から350

mあまり歩くと、左手に空き地が見えます。元町墓地の跡です。歩いてきた道を振り返ると、正面かなたに藻岩山を望めます。幕末にこの道を歩いた先人も、藻岩山を目印にしていたのかもしれない。

さらに進むと、左右に古そうな木造の倉庫が目に入ります。左方の倉庫には珙瑯（ほうろう）製の古い町名看板が壁に残っています。何と書かれているのでしょうか。木造倉庫から 400 m 近くのところに、今度は石造りの建物が見えます。「プー横丁」というレストランに再利用されている元タマネギ倉庫です（図 2）。今回のまち（道）歩きは、ここで終わります。郷土記念館からの距離は約 1.7 km、歩数にして 2,400～2,800 歩です。



図 2：レストラン プー横丁

前回のウォーキングの最後に、石造りのタマネギ倉庫のことを謎かけしました。昭和 30 年代に建てられた理由です。かつての幹線道路ですから、物流の拠点となったことは察せられます。前回の道沿いに残る倉庫の多くは流通業者が建て、今回の行程上ではおもに生産農家が建てました。タマネギは価格変動の大きい商品作物です。収益を確保するためには、相場をにらみながら出荷する必要があります。農家の人たちが自前で倉庫を建てたのは、出荷時期の主導権を握るためでした。石造りの倉庫はタマネギ農家の経済的自立のシンボルでもあったのです。

注：札幌村郷土記念館ほか編『東区今昔 3 東区拓殖史』1983 年、p. 151
参考文献：札幌建築鑑賞会『さっぽろ再生建物案内』第 2 版 2003 年 p. 76-77

筆者紹介 杉浦 正人さん

1991 年に発足した札幌建築鑑賞会・代表。
「わが街の文化遺産を再発見」をテーマにした
まち歩き行事の開催や、地域の歴史を調査・研究
しています。

